

第 28 回（2025 年度）認定輸血検査技師試験の中間報告

令和 7 年 7 月 22 日

認定輸血検査技師制度
協議会 会長 河野武弘
審議会 会長 奥田 誠
試験委員長 加藤栄史

本試験制度は、一次試験と二次試験からなり、一次試験合格者に二次試験の受験資格を与える。最終的に、二次試験である実技試験に合格した受験者が認定を取得する。例年、一次試験、二次試験の両試験結果が決定された時点で講評を行っているが、本年度の一次試験は合格率が非常に低く、要因を受験者に明確に伝える必要があると考え、一次試験結果の講評を報告する。

本試験制度の一次試験は、筆記試験とし、知識問題、臨床問題の 2 科目とした。一次試験における必須問題は、血液型判定、可能性の高い不規則抗体同定などとし、全問正解することを合格の条件とした。また、必須問題は配点がなく、必須問題以外の問題を採点した。

【1】 一次試験（筆記試験）

1. 受験申請者数：188 名

実受験者数：183 名（辞退者 5 名）

2. 試験結果

- 1) 知識問題：平均点 62.2 点（最高点 87.9 点、最低点 31.3 点）
- 2) 臨床問題：平均点 73.0 点（最高点 96.0 点、最低点 31.0 点）
- 3) 2 科目合計：平均点 67.6 点（最高点 89.4 点、最低点 33.2 点）
- 4) 必須問題：正解者数 57 名（31.1%）
- 5) 合格者数：47 名（合格率 25.7%、47 名/183 名）
 - ・ 新規受験者：38 名（合格率 31.1%、38 名/122 名）
 - ・ 再受験者：9 名（合格率 14.8%、9 名/61 名）

3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 28 回一次試験（筆記試験）は令和 7 年 6 月 22 日（日）、名古屋サンスカイルーム（愛知）を会場に行われた。一次試験は知識問題と臨床問題の 2 科目で行われた。両科目とも試験時間が 90 分間で、マークシート問題と記述問題で構成した。内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、血液型検査、不規則抗体検査など）、輸血に関連する臨床、計算問題、カラム凝集法やマイクロプレート法の検査問題などを出題し、症例問題の血液型判定、可能性の高い抗体同定を必須問題とした。難易度は昨年度の一次試験とほぼ同程度で、平均点は 67.6 点と昨年度の平均点（70.6 点）と同水準であった。しかしながら、本年度試験の合格率は 25.7%と非常に低かった。その原因として、血液型判定や可能性の高い抗体同定などの必須問題に対して 57 名（31.1%）のみが正解であり、昨年度（77.4%）に比して正解率が極端に低下していた。その要因として、輸血検査に関する基本的な知識不足、問題文の内容を理解せず解答していると推察された。受験者は、赤血球型検査（赤血球系検査）ガイドラインなど輸血検査に関する基本的な内容を理解し、問題文をよく読んで内容を十分に理解してから解答する姿勢が望まれる。